

オープンキャンパス 2004：理学部の取り組み

岡野 俊行（生物化学専攻 講師）

去る8月2日（月）、3日（火）に全学オープンキャンパス2004が実施されました。8月2日の本郷キャンパスの公開では、各学部が独自のキャッチフレーズのもとに高校生の見学者を募りました。理学部では、「自然を科学して発見・創造する物語に出会う1日」というキャッチフレーズのもと、6専攻と情報科学科、さらに3つのセンターならびに施設、のべ45グループに協力を頂き、無事公開を終えることができました。なによりもまず、準備・実行にお手伝い頂きました公開研究室の皆様、実行委員・広報委員の

諸先生方、事務部庶務係・理学部広報室の方々、ならびにアルバイトの大学院生の方々にはこの場を借りて御礼申し上げたいと思います。

さて、例年より理学部では、多くの研究室の方々にオープンキャンパスにご協力いただきしており、その甲斐あって、昨年より自由見学方式が実現されました。これは、講堂での講演会のように見学者に対して一方的に情報を流すのではなく、見学者ひとりひとりがパンフレットをたよりに見たい公開場所を自由に巡って行き、説明者（研究室スタッフや大

学院生）と直接対話しながら説明を聞くことができる画期的な方式です。昨年の見学者のアンケート結果において、この方式が好評だったため、広報委員会での本年度オープンキャンパスの企画にあたって自由見学方式を基本として大勢の見学者を招くことにしました。また、自由見学方式には欠かすことのできない理学部案内パンフレットも、昨年度苦勞の末に完成いただいたものをお手本に改訂版を作製し、当日見学者全員に配布しました。これによって、見学者各自の興味のある研究がどこで公開されているの



かを一目で把握することができた
と思います。公開する内容は各研
究室に一任しておりますが、当日
はパネルやパワーポイントを用い
た研究内容の説明に加え、実験機
器の展示やアニメーション、ある
いは実験室の見学など、各研究
室が独自の工夫を凝らしたデモン
ストレーションに時間を裂いてい
ただき、見学者の評判も上々だった
ようです。

このように、本年度のオープン
キャンパスは基本的には昨年度の
形を踏襲しました。しかし、昨年
度の反省点と今後への試みを含め
て、2点ほど変更を行いました。
第1点目は、昨年よりも受け入
れ人数を増やしました。昨年度は、
本郷キャンパス全体で受け入れた
高校生1200名のうち400名を
理学部が担当しましたが、本年度
はこの枠を460名（前半後半各
230名）に広げました。その結
果、欠席者を除いた当日の参加者
数も400名を越え、他学部と比
較しても名実ともに最大人数を受
け入れたことになりました。第2
の変更点は、公開場所をなるべく
近くにまとめ、建物間の移動を容
易にしました。本郷キャンパスに
おける理学部の配置上いたしかた
ない面もありますが、昨年度まで
は公開場所が4カ所以上に分か



れていました。そのため建物間の
移動が煩雑になり、限られた時間
内に希望の研究室をすべて見学で
きなかった可能性があります。ま
た、建物間の誘導にもアルバイト
人員を多数必要でした。そこで
本年度は、5号館および3号館に
おける公開をやめ、その代わり新
1号館内の教室や会議室を活用し
てそれぞれの学科に公開してい
ただきました。その結果、1号館
を中心とするエリア（化学各館、
4号館、7号館を含む）と2号館
エリアの2カ所に公開場所を絞
ることができ、アルバイトによる
ガイドを効率的に行うことがで
きたため、移動による見学者の
ストレスも半減したのではない
かと期待し

ています。マイナス面として、地
球惑星科学専攻（5号館）と生物
化学専攻（3号館）の公開研究
室の方々には、場所の確保から
準備や移動にこれまで以上に時
間を費やしていただくことにな
り、また、研究機材を公開でき
ない等の不都合もあったかと思
います。しかしながら、トータル
して考えますとプラス面が大き
かったのではないかと感じてい
ます。

東京大学全体のオープンキャン
パスにおける新しい取り組み
として、例年どおりの本郷キャン
パスにおける公開に加えて本年
度から、大学本部による新しい
企画がいくつか設定されました。
これらの企画は、2日目の駒場キャ

ンパスの公開と並行して行われました。それぞれの企画の詳細はここではご報告いたしません、なかでも、学部学生が企画する学生企画の一つ「理系研究者コース」については、本学部内のいくつかの研究室の方々にご協力いただきました。学生企画では、本学の学部学生が数人の見学者（高校生）をつれて公開研究室を廻り、学生生活や研究内容について大学院生（またはスタッフ）から直接話を聞きながら交流することができました。1研究室あたり約1時間の公開を4回行い、見学者は4つの研究室を見学しました。

学生企画で公開いただく研究室は、実行委員を通して全研究室に希望を募りましたが、理学部では1日目にも自由見学方式にしていることや、企画の立案が遅れて時間的余裕がなかったことにより、「どちらの日に公開すればよいのかわからない」、「両日公開するのは負担が大きすぎる」といったご批判もあったかと思います。実際には、1日目に機器を公開できなかった地球惑星科学専攻・生物化学専攻の一部研究室に学生企画にまわっていただき、あるいは1日目のポスターを流用して2日目も公開いただくことによって、数十名の見学者を無事受け入れることができました。

この新しい取り組みに対する大学全体における評価はまだ報告されておりませんが、初日に自由見学にしていない学部には特に、見学者との蜜な交流ができる点において意義深かったのではないかと思います。私自身、見学に訪れた10名ほどの見学者と個別に話をする時間を持つことができました。高校1、2年生が多く、研究内容を深く理解できるほどの予備知識はまだ持っていないようでしたので、それなりの説明の仕方を考える必要を感じました。また、個人による興味や熱意に若干の温度差が見受けられるものの、何人かは日本全国各地から夜行バスを使って上京、オープンキャンパス終了後にその日の夜行バスで帰郷するといった強行軍を覚悟

で参加していました。彼らのうち一体何人が実際に本学を受験し、また何人が実際に入学するかは不明ですが、一人でも多くの高校生がこれを機に「理学」に目覚め、将来を支える科学者・研究者を目指してくれば、と願う限りです。

以上、両日含め、ご協力いただきました皆様に重ねて御礼申し上げますと共に、何かお気づきの点、ご批判などございましたら遠慮なくご連絡ください。ひき継ぎ事項として来年度のオープンキャンパスにフィードバックしたいと思います。どうもありがとうございました。

